



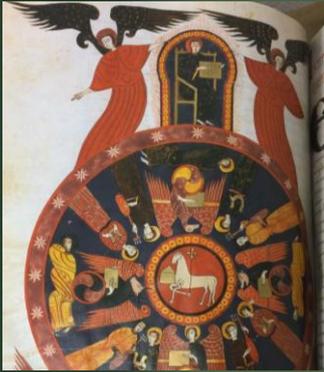
Library Liébana

2023年12月度展示内容のお知らせ

【今月のベアトウス写本】

今月も11月に引き続き豪華な写本を見てみたいと思います。王侯貴族や裕福な商人がつくらせた写本はその大きさも大きく彩色も金銀が多く使われ、豪華なつくりになっています。

【ベアトウス黙示録写本より】



(ファクトゥス写本)
1047年頃



(カルデーニヤ写本)
1175 - 85年



(ラス・ウェルガス写本)
1220年



(アロヨ写本)
13世紀前半?

【黙示録写本】

【聖書写本】

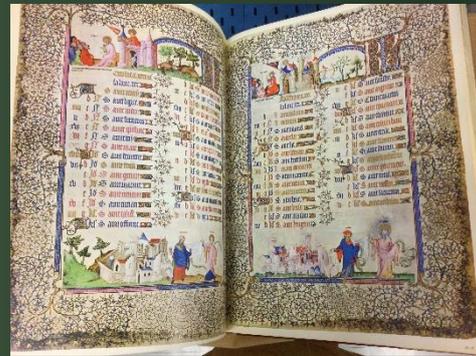
【時禱書】



(トリニティ黙示録)
1230-50年



(道徳聖書(教訓聖書))
1220-30年



(ベリー侯の大時禱書)
1409年

ファクシミリ本でみるスペイン黙示録の世界 中世彩色写本を紹介

12月の開館日(予定)
水・木・金・日曜日
(HPで確認下さい)

Google Map



愛知県豊田市西町5丁目5
VITS豊田タウン B1F
(西町5丁目北交差点の
外側階段を降りて下さい)
10:00~17:00

H.P.



Instagram



ファクシミリ本とは：
オリジナル写本の大きさや色を再現。
特に羊皮紙の厚みやしわも忠実に
再現した複製本も多数展示しています。



2023年12月						
月曜日	火曜日	水曜日	木曜日	金曜日	土曜日	日曜日
27 (R)	28 (R)	29 (R)	30 (R)	1 (R)	2 (R)	3 (R)
4 (R)	5 (R)	6 (R)	7 (R)	8 (R)	9 (R)	10 (R)
11 (R)	12 (R)	13 (R)	14 (R)	15 (R)	16 (R)	17 (R)
18 (R)	19 (R)	20 (R)	21 (R)	22 (R)	23 (R)	24 (R)
25 (R)	26 (R)	27 (R)	28 (R)	29 (R)	30 (R)	31 (R)

12月1日(金)は15時開店、6日(水)、13日(水)、20日(水)は13時開店、21日(木)は15時開店です。
28日(木)~1月6日(土)はお休み。

ベアトウスの黙示録註解書写本について

中世初期のイベリア半島北部アストゥリアス地方のリエバナにある修道院の修道士、ベアトウス(ベアトBeato ? -798)が776年に「ヨハネの黙示録註解書」を編纂しました。原本は既に存在していませんが、非常に人気を博し、10世紀から12世紀にかけて多くの写本がイベリア半島はもとよりフランスやイタリアなどで制作されました。ほとんどの写本には、彩色された挿絵が多数描かれており、その鮮やかな色使いと想像力豊かなインパクトの強い挿絵が後世にながく影響を与えてきました。

これまでに発見されたベアトウス写本のうち、挿絵入りのものは29 写本あり、そのうち完本の写本は22写本、断簡の写本が7写本あります。

本ライブラリーには完本22写本のうち19写本のファクシミリ版があります。ファクシミリ版の中には羊皮紙の厚みやシワ・汚れ・破れ・落書きなどをそのまま再現した精巧なものもあります。

1000年近く前に作成された写本の当時の雰囲気味わってください。

今月の展示写本

今月も11月に続き豪華な写本を見てみたいと思います。王侯貴族がつくらせた写本はその大きさも大きく彩色も金銀が多く使われ、豪華なつくりになっています。

ベアトウス写本は当初は修道院で製作されたものが多く、羊皮紙も厚くて高価なものではなく、彩色も金銀が使われることが少なかったが、王家が発注したものや王立修道院で製作されたものは大きく豪華な彩色のものが見られます。

【ファクドウス写本】

1047年頃完成。王家が発注したこともあり、金・銀・紫がふんだんに使用され、豪華な挿絵が98点描かれています。

【カルディーニャ写本】

51点におよぶ細密画は極めて美しく、本書の製作に関わった装飾画家たちの技術の高さと繊細さ・緻密さを物語っており、赤・青・緑の色調が金箔の輝きと一体化した活気のある鮮やかな図像と、熟練した写字生による文章とが完璧な調和を作り出している。

【ラス・ウェルガス写本】

ベアトウス写本の中でも1220年という最も遅い時期に制作された最も大型の写本。Las Huelgasの王立修道院で製作された最も大きなベアトウス写本です。

【アローヨ写本】

ラス・ウェルガス写本同様王家の注文によって制作されたもので、金箔・銀箔を随所に用いた豪華さが目を引く。

【トリニティ黙示録写本】

当時の写本としては大判(435×320)の写本で、豪華絢爛に彩色されていることから、高貴な身分の人に献呈されたと考えられる。

【道徳聖書(教訓聖書)】

1220年代のパリで作られたものの一つで、現存する唯一のフランス語写本(他はラテン語)。道徳的な教育のために造られた絵本のようなもので、もっとも有名な挿絵は一番最初に描かれている神の絵で、カオスから円形の宇宙を設計するためにコンパスを使用している創造主神の絵です。

【ベリー侯の大時禱書】

ベリー公ジャン(1340-1416)は、大変な写本愛好家で、現存する写本でかつてベリー公の所有にあったと考えられる写本が100冊近く数えられている。「大時禱書」という名前は、ベリー公の財産目録の「きわめて大きく、いとも美しく豪華な時禱書」という記述に由来する。400×300という紙葉の大きさは時禱書としては異例である。

(「世界で最も美しい装飾中世」前川久美子より)